

# H28年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

1

施設名	新潟市食と花の交流センター		
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成26年4月1日 ~ 平成30年3月31日
担当課	農林水産部 食育・花育センター		
所在地	新潟市中央区清五郎336番地		
根拠法令			
設置条例	新潟市食と花の交流センター条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦敷地面積 約5.7ヘクタール</li> <li>◦主な施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花とみどりの展示場</li> <li>・見本園</li> <li>・情報発信コーナー</li> <li>・直売所</li> <li>・レストラン</li> <li>・多目的広場</li> <li>・駐車場</li> </ul> </li> </ul>		

施設設置目的	
<p>本市が誇る食と花の魅力を市内外に発信し、多くの人にその魅力に触れる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大及び農村と都市との間の交流を推進し、もって農林水産業の振興及び市民の豊かな生活の実現に資することを目的とする。</p>	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p>事業理念</p> <p>(1) 地域農業振興につながる施設 本市の食や花に関する情報発信や地域独自の商品開発、提供などにより地域農業の振興を図る。</p> <p>(2) 市民に愛される食と花の施設 市民に親しまれ、地域農業に対する理解やほこりを感じられる事業を展開する。</p> <p>(3) 本市農業の先導役として、商品開発や食・花を活かしたライフスタイルの提案などを継続的に推進する。</p>
2	<p>重点政策</p> <p>(1) 市内外に本市の食と花のプロモーションを展開し、ブランド力を高め、販路の拡大を図る。</p> <p>(2) 食と花の新たな価値の創造及びライフスタイルを提案する新規事業の企画</p> <p>(3) 食と花によるにぎわいの創出及び憩いの空間を提供する。</p>
3	<p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

## 2

施設名	新潟市動物ふれあいセンター		
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成25年4月1日 ~ 平成30年3月31日
担当課	保健衛生部 保健所環境衛生課		
所在地	新潟市中央区清五郎345番地1		
根拠法令			
設置条例	新潟市動物ふれあいセンター条例		
施設概要	敷地面積 約4,299㎡ 延床面積 709㎡ 建物構造 木造平屋建 主な施設 ・動物飼育棟 ・動物ふれあいハウス ・アルパカ広場 ・ひつじ・やぎ広場 ・ポニー広場 ・ふれあい広場		

施設設置目的	
動物とのふれあいを通じて人と動物との関わりを学ぶ機会を提供することにより、動物愛護の精神を養い、これを普及させ、もって人と動物が共に暮らす社会の実現に寄与することを目的とする。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1 事業理念	<p>(1) 命の大切さを感じる施設 動物とのふれあいを通して、命の大切さ、やさしい心、思いやりの心を育む。</p> <p>(2) 市民の健康維持と交流の施設 動物とのふれあいは、市民の心にやすらぎや癒しを与え、心身の健康づくりに効果をもたらす。</p> <p>(3) 動物への理解を深め学ぶ施設 動物に関する知識を正しく学び、体験により理解を深め、人と動物が共に生きる社会の実現を目指す。</p>
2 重点政策	<p>(1) 動物の特性及び動物との適切なふれあい方の情報を提供する。</p> <p>(2) 動物とふれ合う機会を提供する。</p> <p>(3) 保健所が保護した動物の譲渡事業に協力し推進を図る。</p>
3 管理運営方針	<p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

施設名	新潟市こども創造センター			
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成25年4月1日	～ 平成30年3月31日
担当課	福祉部 こども未来課			
所在地	新潟市中央区清五郎375番地2			
根拠法令				
設置条例	新潟市こども創造センター条例			
施設概要	敷地面積 3,024㎡, 延床面積 2,990㎡ 建物構造・主な施設内容(構成施設の内容) 鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造4階建 1階 陶芸・美術・工作スペース, 光と音の造形スペース, 展示スペース 2階 総合活動スペース 3階 総合活動スペース・保育ルーム 4階 総合活動スペース, 憩いのスペース, ふれあい緑化スペース			

施設設置目的	
子どもに創作活動及び体験活動の機会及び場を提供することにより、子どもの自ら生きる力を伸ばし、及び共に生きる力を育むことを目的とする。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p>基本理念</p> <p>(1) 市民との協働による市民主体の運営 市内の美術団体、地域の活動家、教育現場の指導者など、既に造形活動を展開されている多くの方々や子どもの健全育成や子育て支援家庭への支援に取り組む多くの方々の協力も得ながら、様々な企画を市民が一緒になって活動を支援する仕組みをつくり事業を展開する。 あわせて、様々な広報活動を積極的に行い、情報発信するとともに、市民からの情報提供を受け、より良い運営に努める。</p> <p>(2) 市民の文化活動活性化に向けた運営 幼稚園・保育園・小中学校での活動や授業に活用できるプログラムの作成や様々な遊び活動などを通して、子どもの創造性や主体性を高めるような事業を展開するなど、市民の文化活動をさらに盛り上げ、継続し地域に広めていく拠点施設としての運用を図る。</p> <p>(3) 周辺環境・施設との一体的な運営 立地条件のメリットを最大限活用し、施設(ハード)間の連携とともに、動植物とのふれあいに基づく学習・発見・体験・感動を創作活動に発展させるよう、創造性がさらに高まる運営(ソフト)を充実させ五感を刺激し自分の思いや考えが表現できる豊かな人間性を育むことを目指す。</p>
2	<p>重点政策</p> <p>(1) 子どもの「自ら生きる力」を伸ばし、「共に生きる力」を育むうえで大切な、創造性を育む創作活動や体験活動事業を実施する。</p> <p>(2) 多くの市民や団体・企業などを巻き込んだ地域連携活動を行う。</p> <p>(3) 幼稚園・保育園、小中学校の活動支援及び施設利用の促進を行う。 また、大学や教育関連団体等とプログラムや人材の交流を行うとともに、研究や調査活動を積極的に支援する。</p> <p>(4) 市内の教育関係団体や、子ども関連施設などにおける情報発信拠点などセンター事業を行う。</p>
3	<p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

施設名	新潟市アグリパーク			
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成26年4月1日	～ 平成30年3月31日
担当課	農林水産部 食育・花育センター			
所在地	新潟市南区東笠巻新田3044番地			
根拠法令				
設置条例	新潟市アグリパーク条例			
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 約4ヘクタール</li> <li>○主な施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場及び畜舎</li> <li>・農業体験クラブハウス及び体験棟</li> <li>・直売所</li> <li>・レストラン</li> <li>・宿泊コテージ及び研修棟</li> <li>・食品加工支援施設</li> </ul> </li> </ul>			

施設設置目的	
市民が農業に触れ、及び親しむ場並びに農業を学ぶ場を提供することにより、地域の農業に対する理解を深め、もって郷土愛を育むことを目的として、並びに市内の生産者等に対する食品の加工等に関する技術的支援を行うことにより、農業の振興に資すること	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p>事業理念</p> <p>(1) 地域農業振興につながる施設 本市の食や花に関する情報発信や地域独自の商品開発、提供などにより地域農業の振興を図る。</p> <p>(2) 市民に愛される食と花の施設 市民に親しまれ、地域農業に対する理解やほこりを感じられる事業を展開する。</p> <p>(3) 本市農業の先導役として、商品開発や食・花を活かしたライフスタイルの提案などを継続的に推進する。</p>
2	<p>重点政策</p> <p>(1) 全国初の本格的な教育ファームとして、子どもたちに生産・栽培から加工・販売までの農から食の一連の体験プログラムを提供し、食の豊かさ、大切さ、命の大切さを伝え、郷土愛を育むと共に豊かな感性と創造性を形成する。</p> <p>(2) 新規就農者に対し、農業の知識、技術及び技能の習得のためのカリキュラムを提供し、円滑に就農が進むよう支援する。</p> <p>(3) 農家、事業化への農業技術・加工技術の支援及び食品加工の新品の開発により6次産業化を推進する。</p>
3	<p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、適切な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的な管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	評価指標	いくとびあ食花3施設				実績	評価	評価コメント
			いくとびあ食花3施設	食と花の交流センター	動物ふれあいセンター	こども創造センター			
市民	入場者数	いくとびあ食花3施設の来場者数 :107万人以上/年	○				996,791人	C	指標を下回った
		アグリパーク :20万人以上/以上					○ 193,837人	C	指標を下回った
		宿泊施設の稼働率 :39%以上/年					○ 39%	B	指標通り
	団体利用	食と花の交流センター :利用団体420団体以上/年	○				351団体	C	指標を下回った
		動物ふれあいセンター :利用団体630団体以上/年		○			581団体	C	指標を下回った
		こども創造センター :利用団体450団体以上/年			○		432団体	C	指標を下回った
	交流の拡大	交流イベント :8回以上/年	○				11回	A	指標を大きく上回った
	多彩な事業展開	食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 :年130回以上/年	○				217回	A	指標を大きく上回った
	食と花のプロモーション	企画イベント :130回以上/年	○				85回	C	指標を下回った
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 :27,000人以上/年					○ 25,851人	C	指標を下回った
新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数 :600人以上/年					○ 734人	A	指標を大きく上回った	
6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催 :70回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者 :470人以上/年					○ 70回 518人	A	開催数は指標通りだが、受講者数が指標を大きく上回ったためAとした。	
広報の充実 ※( )はアグリパーク	・HPの情報更新 :50回以上/年(20回以上/年) ・アクセス件数 :39万回以上/年(12万回以上/年)	○				○ 239回(155回) 374,796回(119,870回)	B	アクセス件数が指標を下回っているが、更新回数は指標を大きく上回っているためBとした。	
利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	○				○ いくとびあ食花3施設:92% アグリパーク:99%	A	指標を大きく上回った。	
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	○				○ 食と花の交流センターにて収支が赤字、指定管理事業も赤字	C	食と花の交流センターにて収支が赤字、指定管理事業も赤字のためCとした。
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	○				○ 適正に実施	B	指標通り
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	○				○ いくとびあ食花3施設:2回 アグリパーク:2回 いくとびあ食花3施設、アグリパークとも左記マニュアル作成済	B	指標通り
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	○				○ いくとびあ食花3施設:2回 アグリパーク:12回	A	いくとびあ食花3施設では指標通りであるが、アグリパークが指標を大きく上回ったのでAとした
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	○				○ いくとびあ食花3施設86% アグリパーク:100%	B	いくとびあ食花3施設では指標を下回ったが、アグリパークが指標を大きく上回ったのでBとした
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 :各1回以上/年	○				○ いくとびあ食花3施設:鳥屋野湯南郡連絡調整会議1回 アグリパーク:新潟市(産業振興課、農業政策課、教育委員会、南区役所、中央区役所)大蔵地区コミュニティ協、根岸地区コミュニティ協、農業活性化研究センター、JA新潟みらい、JR東日本新潟支社等のべ10回	A	食と花の交流センターでは指標通りであるが、アグリパークが指標を大きく上回ったのでAとした
	市民協働の推進 ※( )はアグリパーク	ボランティアの受入れ :延べ2,000人/年以上(4施設合計に変更)	○				○ 1,914人	C	指標を下回った
		市内の動物関係団体等との連携事業 :6回以上/年			○		6回	B	指標通り
		市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 :200回以上/年				○	184回	C	指標を下回った
	社会貢献 ※( )はアグリパーク	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ260人/年以上(4施設合計に変更)	○				○ 188人	C	指標を下回った
	施設の稼働	年間休館日数 :24日以内/年(いくとびあ3施設及びアグリパークの各休館日に変更)	○				○ いくとびあ食花3施設:動物、こども21日、交流センター5日 アグリパーク:無休	A	指標を大きく上回った。
	人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	○				○ 適正に実施	B
業務の理解度と習得度		職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	○				○ いくとびあ食花3施設:2回 アグリパーク:6回	B	指標通り
市内雇用の貢献度		市内住居者の雇用率 :90%以上	○				○ いくとびあ食花3施設:96% アグリパーク:86%	B	いくとびあ食花3施設では指標を大きく上回ったが、アグリパークが指標を下回ったのでBとした
支援者の育成		支援者研修会の実施 :12回以上/年			○		73回	A	指標を大きく上回った。

## 指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

### ■ 食と花の交流センター

平成 26 年 6 月 21 日にオープンしてから、概ね3年近くが経過し、最終的な年間来場者数は 398,624 人となった。(対平成 27 年度 95.4%)

施設別に見ると花畑(対平成 27 年度 58%)、レストラン(対平成 27 年度 72%)の利用は減少しているが、直売所(対平成 27 年度 114%)の利用は大きく伸びている。

花畑については、施設回遊性の向上、利便性の向上のため、一部無料期間を設けたこと、夏に実施したイルミネーションの来場数が不調だったことが主因と考えられる。

とはいえ、いくとびあ食花エリアの中心として、交流イベントやコラボ・連携事業、展示館、ガーデンなどの各種事業要素を複合的に活用し、新潟の食と花をより効果的に PR できるよう、また、いくとびあ食花の賑わい、ガーデン入場者数の増加に繋がるよう、魅力ある各種プロモーションイベントに努めており、次年度も継続したいと考える。

また、外部との連携についても着実に増えてきており、引き続き周辺施設(新潟市産業振興センターや新潟テルサ、ビッグスワン、天寿園等)の協力のもと、各主催者とも可能な限り協力・連携を依頼し、いくとびあ食花への誘客企画を検討・実施していきたい。

財務については、上記花畑の入場減、その他自主事業収入が減少したことが影響し、経費の削減には努めたものの、予算を下回る結果となった。

次年度は、上記各種取り組みを魅力的な内容で積極的且つ効率的で効果的な広報活動による市民への告知により一層努め、当施設への集客を促すとともに、来場者に喜んで頂くことのできる施設の提供及び、市民に愛される施設運営を行い、来場者数の向上並びに財務の健全化を目指すものとする。

### ■ 動物ふれあいセンター

オープンから丸 4 年が経過し、市民への当施設の周知も進み入館者数 311,630 人と目標の 30 万人クリアはしているが、オープン景気も落ち着き、入場者数、団体数ともに、減少傾向にあると思われる。

とは言え、交流の拡大や多彩な事業展開、自動販売機の設置等、施設の利便性向上、お客様へ提供するサービスの向上に引き続き努めた結果、アンケートから見のお客様からの満足度は 92.1%と前年を上回る高評価を得ている。

また、犬・猫の譲渡についても、譲渡率こそ前年度をわずかに下回ったが、譲渡数、参加者数とも前年度を大きく上回っており、当施設の設置意義を十分に達成できたものとする。

次年度も動物福祉に主眼を置いた適正な飼育環境の整備、維持、並びに動物種に応じた適法・適切な飼育に努めるとともに、お客様へ楽しみながら動物を命を愛でる精神を養える各種企画を検討、実施し、今年度以上の入館者数を目指すものとする。

### ■ こども創造センター

オープン景気が過ぎた影響もあり、入館者数では初めて 30 万人を割り込み、前年度対比 92.7% 286,537 人の入館者数であった。

しかしながら、いくとびあ食花内の他施設同様当施設の周知も進んでおり、多くのリピーターに利用されている。

当施設の大きな機能である創作等体験事業やこども関連団体等の事業についても、昨年度を下回っているが、長時間滞在の利用や複数回来館しての継続・発展的な利用は増加しており、その意味では当施設の機能を十分発揮できているものとする。

団体の利用については、「団体体験プログラムシステム」が定着しており、前年度を若干下回っているが、依然好評を得ている。

展示についても、空期間がないよう計画的且つ体験と連動させた展示を実施したことにより昨年度の倍以上の実績を残すことができた。

施設設備点検については、仕様書を遵守することはもちろんのこと、きめ細やかな清掃や、当施設独自に全職員による施設・備品の点検を実施し、さらには、日常の巡回で発見された不具合にも迅速に対応したことにより、けが・事故等の数も30%減少した。

また、他施設同様お客様の利便性向上に資するべく自動販売機を施設に隣接設置している。

以上のような取り組みにより、アンケートから見る利用者満足度は91.8%と前年度よりも向上しており、さらに、アンケートへ記載される当施設への励ましや、感謝の内容も多く見られるようになった。

次年度も引き続き、「誘うシカケ」、「楽しみ、学び、自身を育むシカケ」、「市民協働のシカケ」の3本のシカケを確実に推進しつつ、Creative Learning Centerの名が示す通り、こども創造センターが本来持っている存在目的・意義の実現に努め、より多くの入館者数の獲得を目指すものとする。

## ■ アグリパーク

当施設の平成28年度総来場者数は193,837名で平成27年度を若干下回った。（対平成27年度比97%）

当施設の繁忙期である6月から10月にかけての土日については、1,000人/日余りの来場があり大変賑わいを見せていることから、施設の存在や利用についてお客様への周知が進んでいることと考えるが、全体的に冬期間の来場に苦慮しており、冬期間の集客企画を改めて再考する必要があると考える。

教育ファームについては、参加学校数は過去3ヶ年で着実に増加しており、平成28年度は近隣の市町村からの利用もあり、参加学校からの評価も高く、満足度も高かった。尚、一般向けについては、若干の減少傾向がみられるため、施設の特性を生かした親子向け家族向けのプログラム等を見直していきたい。

就農支援については、農業体験、農業塾、農福連携事業、ニューファーマー育成研修事業など、当施設独自の事業、行政と協働での事業を実施し、参加者、受講者は着実に増えている。平成28年度はニューファーマー育成研修受講者の1名が新規に就農した。

現在の農業において、農業者の高齢化に伴う新規就農者不足や障がい者の就労など農業には大きな課題等があることから、当施設の就農支援事業もそれらに対応した多様な事業展開を今後も行う必要性がある。

農業の6次産業化の推進を目指す食品加工支援センターについては、平成27年度と同等の講座数を実施し、受講者は昨年度を1割程度上回った。講座以外での加工室の利用はさらに大きな伸びを見せ、平成27年度対比で6割程度増加している。その中でも農業関係者の利用が8割を占め、6次産業化に対する関心の高さが伺えるとともに、食品加工支援センターの施設設備、事業内容が評価されてきているものとする。尚、平成26年度から平成28年度に当施設を利用して商品化された商品は1次加工品も含め17品目（25アイテム）にのぼり、その中でも当施設が関わり商品化に成功した市内酪農家が自前の加工施設を建設し、6次産業化に取り組んだことは高く評価できると考える。

次年度については、上記記載の通り冬期間の利用促進を図るべく各種企画を再考し、また、施設の活性化、地域の賑わいの創出を視野に入れた各種イベント、体験講座等を定期的に開催し、当施設の来場者数の増加、行政施策の市民への周知を目指すものとする。

## 所管課による総合評価（所見）

### ●農林水産部 食育・花育センター

#### ○食と花の交流センター

食と花の交流センターの設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われており、また、いくとぴあ食花各施設の全体的とりまとめや代表的役割を果たしている点について評価する。

オープン3年目を迎え、来場者は前年度に比較して減少したが、いくとぴあ食花の各施設や周辺施設と連携・協力することで交流イベントやコラボ事業を実施し、また、ホームページやSNS、メディアなどを活用して広く周知するとともに、団体利用の受入れを積極的に行なうなど指定管理者の努力について評価する。

来場者の満足度については、職員の接遇や来場者が楽しめるよう創意工夫をこらした企画を実施したことにより、高い評価につながったものと思われる。今後も継続して高評価をいただけることを期待する。

運営収支については入場料収入の減やその他自主事業収入の減少により予算を下回る結果となった。

これまでも経費の見直しなどの努力をしているが、施設全体で楽しめる企画や民間企業ならではの柔軟な発想のもと、これまで以上に内容を充実させ、新規の来場者を掘り起こすとともに、リピーターの確保につなげ、来場者に満足していただく中で収入が今以上伸ばせるよう取組んでいただきたい。

#### ○アグリパーク

アグリパークの設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

来場者数については目標を達成できなかったが、事業ごとで指標を見た場合、就農支援事業、食品加工支援事業においては目標を上回っており、また、宿泊施設の稼働率も目標を達成しており、個別の事業については十分成果を上げており評価する。教育ファーム事業についても学校向けについては十分成果を発揮しているが、一般向けについては減少傾向が見られるため、施設の特性を生かした新しいプログラムの検討・導入を期待する。

来場者の満足度は99%と非常に高い評価となっており、日ごろの職員の接遇や来場者が楽しめるよう創意工夫をこらした企画を実施したことにより、高い評価につながったものと思われる。今後も継続して高評価をいただけることを期待する。

運営収支については経費節減に努めたほか自主事業の収入増加により収支の改善が図られたことを高く評価する。

オープン4年目を迎え、企画がマンネリ化しないよう、今年度の取組みを更に発展させ、多くの方から利用していただき、満足してもらえる施設となるよう取組むことを期待する。

### ●保健衛生部 保健所環境衛生課（動物ふれあいセンター）

動物ふれあいセンターの設置目的に沿った体験事業を積極的に実施し、事業計画書に基づき適切に管理運営されている。

来場者数については、前年度と比較して減少したが、目標の30万人を達成したことは評価する。

利用者の満足度が前年度より高くなっていることについて、交流イベントやコラボ事業の実施、多目的広場(ドッグラン)の利用増や自主事業の充実等、指定管理者の努力によるものと思われる。引き続き高い利用者満足度を維持するよう努めていただきたい。

今後もいくとぴあ食花各施設の連携を強化し、魅力あるイベントを開催し、新規の来場者及びリピーターの確保に繋げていただきたい。

### ●福祉部 こども未来課（こども創造センター）

事業計画に基づき、適切な管理運営が行われている。また、収支については運営面の様々な工夫により経費削減に努め、効率的で適切な経費の執行がされた点を評価する。

入館者数は初めて30万人を割り込み、前年度と比較し減少となったが、リピーター率が高く、継続・発展的な利用が増加しており、子どもの創造性を育む創作活動や体験活動が好評を得ているものと思われる。

引き続き、複合施設であることや市民協働型の運営等の強みを十分にいかし、質の高い体験学習等の提供により、団体利用者の獲得に努めていただきたい。また、個人の利用者についても様々なイベントやものづくり体験等により、高いリピーター率の維持に努めていただきたい。

多様な事業展開に加え、きめ細かい施設設備点検の実施や利用者の利便性向上を考えた施設づくりに取り組み、前年度を上回る非常に高い満足度を獲得している点について高く評価する。今後も施設の特性をいかした多様な事業展開のほか、保護者が安心・安全に子どもを遊ばせることが出来る施設づくりを継続し、高い利用者満足度を維持するよう努めていただきたい。